

(様式1)

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>これまでの理念に加えて地域密着型サービスの役割を踏まえた新しい理念を職員全体で話し合い、作成した。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>地域密着型サービスの意義を職員全体で共有し、日々のケアの提供場面に活かされるよう取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>グループホーム便りを年3回作成し、家族に配付。また、地域行事へも積極的に参加することで地域から孤立しないようにしている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>日常的に買い物等に出かけて挨拶を交わしたり、顔馴染みになっている。五戸祭り・田の草取り踊りの見学・文化祭等地域の行事やクリスマス会・運動会等保育園の行事に参加し、地域の人々と交流することに努めている。</p> <p>キャラバンメイト等については情報不足もある為、今後情報収集していきたい。</p>	<p>地域との交流が深められるよう、町内会や近隣の人々とふれあう機会を多くし、日頃のあいさつや気軽に声をかけ合う等日常的なつきあいができるよう取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>家族と合同の研修の機会を設け、一緒に学んでいきたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書、重度化した場合における対応の指針、看取りについての指針などについて説明するとともに、不安や疑問も確認してから、同意を得るようにしている。		
11 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見、不満等を出しやすいように働きかけている。自分の思いや意見を上手に表すことができない入居者には表情等から、その思いを探る努力をし、日々ケアに活かすようにしている。但し外部者へ表せる機会はないため、法人の第三者委員の協力を求めていきたい。		
12 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来園時には声をかけ、健康状態等について報告したり、定期的にグループホーム便りを発行し、暮らしぶりを写真等で伝えている。金銭管理は出納帳を明示し家族にサインを頂いている。担当の変更等あった場合も家族へ電話連絡をしている。		
13 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事へ参加された際、家族等が意見、不満、苦情を表しやすい雰囲気作りに努めている。出された意見はミーティング等で話し合い、反映させるようにしている。		
14 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回ミーティングを実施しその場でも聞いているが、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、意見や提案を聞き出すようにしている。		
15 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望に対応ができるよう、常に調整に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者、家族、職員の馴染みの関係作り、信頼関係を保つ事を重視し、異動や離職がやむをえない場合も、スムーズに移行できるように配慮している。新しい職員が入る場合も入居者一人ひとりに紹介している。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修、外部研修へ随時参加し、全職員が共有できるように伝達研修の機会を設けている。また、研修の資料はいつでも閲覧できるようにしている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>保険者が開催した地域の同業者との意見交換会に参加したり、他グループホームへの見学等の機会を持つことによりサービスの質の向上の努めている。</p>		<p>地域の同業者と交流や連携を強化し日頃の悩みの相談等の機会を増やし、事業者同士協働しながら、質の向上の取組んでいきたい。</p>
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人全体の旅行やレクリエーション、職員間の親睦会を行っている。また、日常的に職員の疲労やストレス、人間関係を把握するようにし緩和できるよう努めている。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の日頃の努力や成果、勤務状況、健康状態を把握するようにしている。また、職場環境作りに努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>			
<p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の状態を把握するように聴く機会を多く持ち、本人、家族の思いや不安を受け止めるように努めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時は、本人と家族の思いや状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返すようにしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>お試し利用等も実施し、本人が場の雰囲気馴染めるよう対応している。家族にもサービス内容確認のために一緒に宿泊等を勧めている。</p>	
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と一緒の暮らしの中で、本人の思いに共感し理解するように努めている。また、生活歴や得意なことの把握をし、その人の力が発揮できる場面作りをし、入居者、職員間でも感謝の気持ちを伝え合うようにしている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者の暮らしぶりや日常の様子等を細かく伝え、情報の共有に努め、本人を支えていく協力関係が築けてきている。</p>		<p>その一方で、職員に介護を委ねがちになっている家族もある為、本人を共に支え合うような協力関係を築けるように、日常の様子を写真等で知らせるなど工夫していきたい。</p>
26	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>これまでの本人と家族の関係をふまえつつ、夏祭り、バーベキュー等の行事に参加して頂き、より良い関係の継続に努めている。また、来園された際は、居心地よくゆっくり過ごして頂けるよう心がけている。</p>		<p>疎遠となりがちな家族には、本人の日常の状態の報告を今まで通り継続していく。また、本人が書いた手紙や電話をかける等入居者からの家族へのアプローチの仕方も考えていきたい。</p>
27	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>町内の商店や市日等に出かけている。デイサービス利用者(馴染みの友人やショートステイ利用者)が立ち寄ってくれたり、こちらから出向いたりする等、関係の継続に努めている。</p>		<p>職員から働きかけても拒む入居者もいる為、家族等と相談しながら工夫していきたい。また、地域に暮らす知人、友人、馴染みの場所の把握に努め、地域との関わりが途切れないよう家族と相談した上で支援していきたい。</p>
28	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>入居者同士の関係性について全職員が共有できるようにしている。入居者同士の関係がうまくいくように職員が間に入ったり、役割活動を通して入居者同士が助け合う等、関係が円滑になるよう努めている。</p>		
29	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>培われた関係性を大切に、相談や支援に応じるよう対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一緒に暮らす関わりの中で、入居者、家族との会話の内容や表情等から1人ひとりの思いや希望の把握に努めている。把握の困難な入居者については家族から情報を得たり、日々の行動や表情から本人の視点に立って話し合うようにしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に本人や家族、担当ケアマネ等から聴取するようにしている。入居後も本人の会話や家族から情報を伝えてもらい、これまでの把握に努めている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとりの一日の暮らしや生活のリズムの把握に努めている。また、日々の心身の変化にも配慮している。暮らしの中では、できる事、分かる事の発見に努めている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向と職員の気付きや意見をもとに職員全員で課題となることを話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の実地期間終了前に本人や家族の意向と職員の気付き、意見をもとに話し合い、見直し、立案するようにしている。また、状態が変化した場合は随時見直しを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日常の暮らしの様子、家族との関わり、身体状況、排泄、入浴、食事等を記入し、職員間で情報を共有しながら日々のケアを行っている。また、記録をもとにできる事、できない事を見極め、できる事に注目し介護計画に活かしている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設施設の協力を得、入居者の日常的な健康管理や医療処置を受けたり、また併設施設の行事へ参加したりしている。</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>入居者が安心して地域での暮らしを継続できるように警察、消防、また地域住民で結成されたハビネス災害協力隊と連携を図っている。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要に応じて地域の他のケアマネジャーや保健師等と連携を図っている。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>必要に応じて支援に関する相談、情報交換等の連携を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診については基本的には家族にお願いしているが、都合のつかない時は職員が代行している。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	施設の嘱託医(精神科医)の協力を頂いている。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師に日常的に、健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	一週間に1回程度、職員が面会するようにしている。また、家族とも情報交換を行っている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合における対応に関する指針や看取りに関する指針について説明している。平成20年7月には看取りを希望した家族がいたが、話し合いの中で最終的には入院となった。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の入居者が安心して過ごしていけるように、対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を職員全体で話し合い、準備に取り組んでいきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>グループホームから病院のケースがほとんどのため、現在は行われていないが、そうなった場合は十分な情報交換を行っていききたい。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重し、呼び方や声かけには常に注意しており、居室へ出入りする際は必ず声掛けをしている。個人に関する記録等は入居者や訪問者の目に付くところには放置せず、スタッフルームに保管し、個人情報の漏洩防止、プライバシーの確保に努めている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人ひとりに合わせた声掛けをし、食事のメニュー、買い物、入浴日等、本人が選びやすい場面作りをしている。また、意思表示が難しい方は表情や反応を読み取るようにしている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの心身の状態に合わせ、寝る時間、起きる時間、食事時間、散歩、おしゃべり等、柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>一人ひとりの希望、好み、生活歴に応じて選べるよう支援している。理美容院については希望に応じて家族や職員の付き添いを行っている。また、本人、家族の希望で併設施設に来ている理容室を利用している方もいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは入居者と相談しながら決めるようにしている。食事の準備、盛り付け、片付けは入居者と一緒に行い、食事をする際は同じテーブルで楽しく食べる事ができるように努めている。ホームの畑から一緒に採ってきた旬の野菜もメニューの加えている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好品を理解しており、それらを楽しめるように支援している。お酒、タバコに関しては現在希望している方はいないが、本人が望んだ場合、できるだけ希望に沿えるように、主治医や家族と相談し対応したい。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に記録して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声掛けや誘導をすることにより、トイレで排泄ができるように努めている。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、入浴の順番、時間、回数を本人に合わせるように行っている。夜間入浴も良好のため、今後も継続できるようにしていく。入浴を拒む場合は、言葉がけや対応の工夫、日時を変えたりし支援している。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの疲れ具合、体調、表情、希望を考慮し、心身の状態に合わせた休息がとれるように支援している。一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、日中の活動性を高めるなど、安眠につながるよう工夫している。また、寝つけない方には、温かい飲み物を提供したり、話し相手となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴等から炊事、片付け、洗濯たたみ、花壇、畑、掃除、趣味活動等一人ひとりの経験や能力を発揮してもらえるような場面作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	過去にお金を所持している方もいたが、現在は家族の意向もあり自己管理している方はいない。外出時など職員と一緒に金銭のやり取りの機会をできるだけ作るよう工夫している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や入居者の体調を確認したうえで、デイサービス、散歩、町内の商店やスーパーでの買い物、市日等に出かけられるように支援している。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別ショッピングを企画し、家族にも同行を依頼。当日は家族の体調不良で実現しなかったが、個別ショッピングでは入居者が希望する商品を購入でき、満足感が得られた。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることができなくても職員がダイヤルを回したり、かかってきた電話を取り次ぐことにより会話ができる為、希望に応じて支援している。状況により職員は席を外すようにする。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽にいつでも訪ねやすい雰囲気作りを心掛け、気兼ねなくゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。面会時間は設けているも、その時間以外の面会も可能である。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを整備し、内容についても勉強会等に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		定期的な禁止の対象になる具体的な行為について話し合い、自覚しない身体拘束が行われないように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけず、自由に入出入りできるようにしている。玄関にはドアベルを設置し、外出しそうな様子を感じたときは一緒に外出し対応している。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守りできる場所にいるようにしている。夜間は起きてきたときにすぐ対応できる場所で待機し、安全には特に配慮している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や刃物は鍵付きの決まった場所で管理する取り決めがある。ハサミや裁縫道具は、職員の見守りのもと使用して頂くよう配慮している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から考えられる危険を検討し、未然に事故を防ぐ為の工夫に努めている。万が一、事故が発生した場合はその日のうちに事故報告書、又はヒヤリハットを作成し、事故防止委員会の委員も加わり、原因分析会議を行い再発防止対策を検討、実施している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルあり。内部の勉強会や救命救急等の研修会に参加している。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の協力隊の協力を得て、避難訓練、避難場所、消火器の使い方などの訓練を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修等に随時参加し、感染症に関する情報収集し、マニュアルの整備に努めている。インフルエンザ予防接種は、入居者本人と家族の同意を得て行っている。ペーパータオルの使用や外出後のうがい、手洗いの支援を行い、予防の徹底も行っている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルがあり、それに基づいて実行している。新鮮で安全な食材を使用するため、食材には購入日を記入し、毎日、冷蔵庫、冷凍庫の点検を行っているほか、週1回掃除を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、手作りの新聞受けや観葉植物を置き、入居者の作品を飾っている。玄関周りにはプランターを置き、畑では花や野菜を作り、家庭的な雰囲気作りに努めている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室、居間、食堂とつながっており、ソファやこたつを置き、廊下には入居者の作品を飾る等、居心地のよい場所になるよう配慮している。季節の花、野菜は畑で栽培し、花は居間や食堂に飾り、野菜は献立に取り入れている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、食堂、入居者の居室等、気の合った人同士、自由に行き来している。ベランダにはテーブルと椅子を置いている。入所者各々のお気に入りの場所があり、ゆったりとくつろげるように対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 思いや願い等を把握し、全職員で共有してる。
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない おやつ時間帯(10時、15時)と一緒にお茶やおしゃべりをしたり、趣味活動と一緒に歌を楽しんでいる。個別に本人の居室でおしゃべりも楽しんでいる。
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースでその人らしい生活ができています。
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その人らしい暮らしを続ける為に様々な支援を行うことで生き生きとして表情や姿が見られている。
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その日の天気、身体状況を確認のうえ買い物やドライブの他、併設施設への散歩等に出かけている。
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 職員の日々の観察や対応、併設施設の看護職員の日常的な健康管理等により不安なく過ごせている。
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 体調に変化が見られた時、精神的に不安定な時、日々の希望等に応じた柔軟な支援を行っている。
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない 家族の話をよく聴き思いを受け止め、安心してもらうことにより信頼関係が築けている。
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない 時々、馴染みの友人や知人が訪ねてきてくれる他、地域の人々が交流目的で訪ねてきてくれることがある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	事業所の取り組みや具体的な内容を伝え、改善課題の話し合いを通じて関係者とのつながりが広まったり、理解していただいていると思う。
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員一人ひとりの得意とする事を活かし、入居者が笑顔で生き生きと暮らす事が励みとなり、さらに職員の努力や成果につながっている。
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	日常的な健康管理、一人ひとりの思いや希望、楽しみ等に 応じて支援を行う事で、その人らしい暮らしが継続できている。
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	日常的な健康管理、基本的な生活支援、環境作り等について、「安心だ」「穏やかな表情をしてる」「家庭的な雰囲気がいい」等の声が聞かれている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)